

令和元年度市立砺波総合病院経営改善委員会の概要について

「市立砺波総合病院経営改善委員会」を開催し、経営状況等の点検及び評価を行いましたので公表します。

平成29年3月に策定した市立砺波総合病院新改革プラン(計画期間平成29年度から令和2年度)について、この計画に基づく経営状況の点検及び評価を行うため、市立砺波総合病院経営改善委員会(以下「経営改善委員会」という。)を開催しました。

経営改善委員会は、医療関係者のほか、市民団体、経済界、行政等の様々な専門分野の委員8名で組織されており、市立砺波総合病院の経営改善に関する事項等について点検及び評価のため設置しております。出席の皆さんは次のとおりです。(敬称略)

要綱に基づく区分	役 職	氏 名
医療政策に指導的立場に立つ医療関係者	金沢大学附属病院消化器内科教授	金子 周一
砺波医療圏における医師又は看護師等が組織する団体の代表者	砺波医師会長	藤井 正則
市民が組織する団体の代表者	砺波市地区自治振興会協議会長	井上 五三男
	砺波市連合婦人会長	今井 智子
その他学識経験を有する者	砺波商工会議所会頭	北村 憲三
	税理士	水木 保男
行政関係者	富山県砺波厚生センター所長	垣内 孝子
	砺波市副市長	齊藤 一夫

市立砺波総合病院経営改善委員会の概要は次のとおりです。

- (1) 日 時 令和元年11月6日(水) 午後4時から午後5時45分まで
- (2) 場 所 市立砺波総合病院南棟2階第1会議室
- (3) 出席委員 経営改善委員会委員8名
- (4) 協議事項

① 平成30年度経営状況について

収入では、入院・外来ともに延べ患者数が減少したものの診療単価が上昇したことから増収となった。費用では、給与費や材料費及び経費等が増加したものの、全体として収入が支出を上回り、2年連続の黒字決算となった。

② 令和元年度（上半期）経営状況について

前年度上半期に比べ、入院・外来ともに診療単価が上昇しているものの、延べ入院患者数が減少しており、また外来診療日数が前年度と比較して少ないことなどから、本年度上半期の収支は、前年度上半期に比べ黒字額が減少している。

③ 市立砺波総合病院新改革プランの数値目標と取組みの達成状況について

平成30年度の数値目標は概ね達成しているが、一部未達成の項目もあることから、引き続き達成に向けた取組みを進める。

④ 市立砺波総合病院新改革プランの数値目標の見直しと収支の見通しについて

実績や診療報酬改定の影響を考慮し目標値を見直し、これを反映した収支見通しを示した。

委員からの主なご質問やご意見は次のとおりです。

《ご質問》

- ・内視鏡手術支援ロボット「ダ・ヴィンチ」の活用状況について質問があり、当初前立腺がん手術のみ適用していたものであるが、現在当院では腎がんや胃がん等の手術にも対応しており、今後大腸がんの手術でも行えるよう医師が研修を受ける予定であることを説明した。
- ・砺波医療圏内の他病院の患者動向等について質問があり、当院が患者数減となったことに関しては、他の病院へ患者が流れているという状況ではないと評価していることを説明した。
- ・災害への支援状況について質問があり、台風19号で被災した長野県へ、国からの要請により富山県から医療チーム（DMAT）が3隊派遣されたことを報告した。（今回の派遣には当院は含まれていない。）
- ・南棟地下に設置している免震オイルダンパーの大臣認定不適合問題の現況について質問があり、11月30日に交換を予定しており、病院の費用負担がないことを報告した。

《ご意見》

- ・貸借対照表と合わせて評価を行うべきとの指摘があり、決算書にはその旨報告していることを説明した。
- ・患者の動向については、二次医療圏内での死亡者数の推移との関係について分析を行うことが必要である。
- ・新たな医療機器や診療内容等、病院の広報活動に引き続き努めていただきたい。よい病院であることのPRが患者数の増加にもつながることを期待する。
- ・目標達成状況において、未達成の理由を病院全体で十分検証し対策を取るよう努めていただきたい。